



桃豚通信

発行所

有限会社 ポークランド 有限会社 小坂クリーンセンター
 有限会社 ファームランド 株式会社 まんまランド
 有限会社 十和田湖高原ファーム 株式会社 あぐりランド

F017-0201 秋田県鹿角郡小坂町小坂字台作1-2 TEL 0186-29-4000 FAX 0186-29-4002
 URL http://www.momobuta.co.jp E-mail momobuta@ink.or.jp



リーファース 「生産情報公表録内」 JAS規格 平成16年11月認証取得
 安心システム 平成16年9月認証取得
 ISO 14001 平成15年5月認証取得
 ISO 9001 平成15年5月認証取得
 FOOD ACTION AWARD 2010

がんばろう東北！ 食に携わる私たちが 生産者ができること

東日本大震災発生直後 『桃豚』にせまる危機

2011年3月11日に宮城県東沖で発生した東日本大震災により、太平洋沿岸に位置する飼料工場は津波で設備が損壊、桃豚に与える配合飼料の製造・供給がすべてストップしました。また同じく太平洋沿岸の石油処理施設が被災し、燃料不足で輸送手段が寸断。飼料の調達に奔走するどころか、運ぶためのガソリンもままならないような状況が続きました。一時は『桃豚』の生産自体が出来なくなるのではないかという事態にまで陥りましたが、流動的に変わっていく状況をしっかりと把握し、それに準じて生産体制を変えて、あらゆる可能性を探り、多方面へ協力の要請を発信し続けました。



▲わずかな餌に群がる豚



▲やせ細った豚

被災地への炊き出し訪問

被災した地域の為に私たちができること、それは、美味しい桃豚料理を届けること。私たちは『桃豚かやき』、桃豚フランクフルトの材料と道具を車いすに積み、4月8日(金)岩手県下閉伊郡山田町を訪問しました。途中で、被災した釜石の市街地を通り、言葉が通じない道を、路脇の植え込みに突き刺さっている自動車の信号も流されたため警察官による誘導、基礎部分しか残っていない民家など、現地に漂うその喪失感はずいぶん映し出されたものとは比較になりません。そのような状況の中でも、我々の炊き出しをとても喜んで下さり、「わざわざ有難う」と声をかけて下さりました。避難されている方々の毅然とした対応と笑顔がどれも頼もしく映り、復興に向けたたくましさを感じました。私たちが届けた食べ物で、被災された方々が少しでも温かくなつてもらえたら、と思います。



▲スタッフが心を込めて作った桃豚かやき



▲車両に炊き出しの荷物を満載した様子

飼料用米の取り組みがもたらした成果

平成22年秋に完成したばかりで、震災直前の頃はまた試験的な稼働のみだった自社飼料用米破砕施設。まさかこのような状況下で実践することになるとは思いませんでした。社員はフレックス体制で出勤し、朝早くから夜遅くまで、破砕機を毎日フルで稼働させました。破砕した飼料を少ないエサに混ぜることで、十分な量は言えませんが、桃豚がお腹を満たすためのエサを確保することができました。これまでの飼料用米の取り組みが功を奏し、最悪の危機を回避することができました。



▲飼料用米破砕機



▲破砕された飼料用米

しかし、破砕した飼料だけでは豚が消化不良を起こすなどの課題に直面することもあり、消化を促進するためにどうしたらよいか、日々試行錯誤しながらエサ作りに励みました。

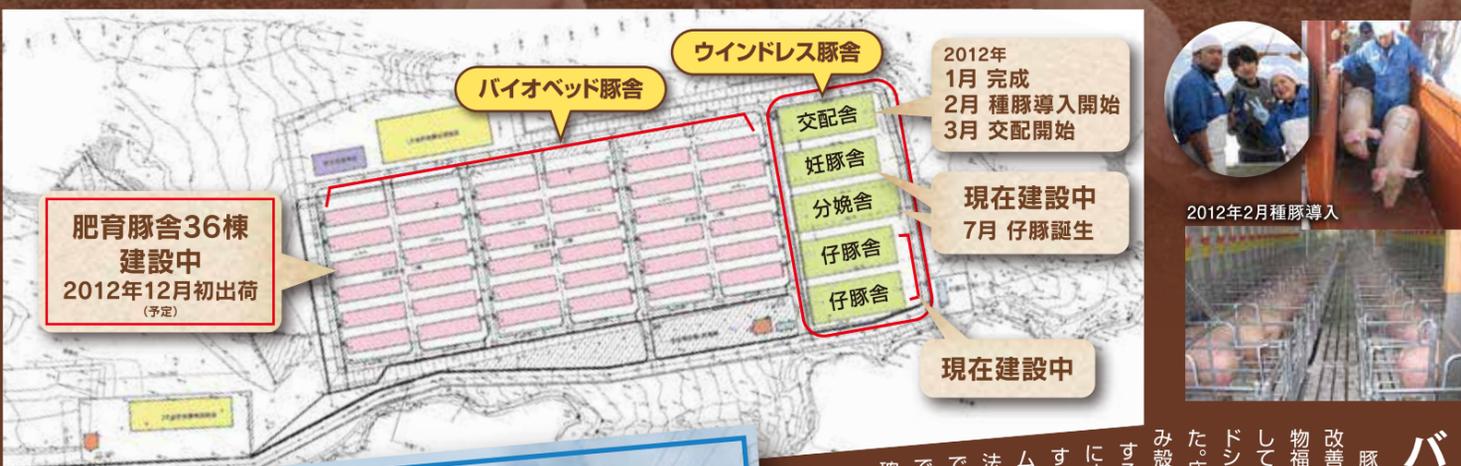
人と人の繋がりが絆

当地では今回の地震による停電が一昼夜続きましたが、幸いにして社員や社員の家族も無事で建物の倒壊など直接的な被害はありませんでした。しかし、今まで当たり前のように届いていた飼料・燃料が届かなくなると様々な問題が発生しました。誰も経験したことのない不測の事態に全社員一致団結し乗り越えよう！とはしたものの、先行きが不透明で一度は諦めかけた生産者...

この窮地に対処することができたのは、私たちの努力だけではありません。飼料・飼料用米の確保に尽力下さった飼料会社や、海路で運ばれてきた緊急供給飼料を片道7~8時間かけて陸路で運んで下さった飼料運送会社、豚たちの状態に対して専門的な分野からアドバイス下さった関係取引先の皆様、宅急便の配達を再開されると同時に、遠方から農場を気遣う直筆のお手紙を下さったお客様やお取引先の方々、人と人の繋がりによってこの難局を乗り切ることが、「桃豚」の生産を継続することが出来たと痛感しております。

「絆」がどんなに大切なものなのかを深く、深く、胸に刻んだ年でした。この経験を糧とし、今後も全社員一丸となって桃豚の生産に邁進して参りますので、これからも宜しくお願い致します。

ポークランドグループ代表
豊下勝彦



2012/いよいよ/新農場「バイオランド」が稼働します！

約30haの耕作放棄地を開墾・造成し、新農場の建設が着々と進行中！
 東京ドーム約6.4個分の広大な敷地の中で豚にストレスを感じさせず、のびのび健康に育てます。

バイオベッド豚舎実践段階へ

豚が快適に過ごせる環境の改善(アニマルウェルフェア)動物福祉の観点に有効な手段として、平成16年よりバイオベッドシステムに取り組んできました。床材には地元で発生するもみ殻、稲わら、おが屑等を活用することで、資源循環も可能にする。次世代型の飼育方法です。また、バイオベッドシステムは、通常の豚舎での飼育方法よりも低コスト(約40%)で豚をより自然に近い環境で健康に育てるシステムの確立が可能となります。これまでの取り組みがいよいよ実用化され、本格的にも追求し続けます。

ポークランドグループが以前から掲げていた「農業(日本を元気にしたい)」という目標は、大震災を経てますます大切なものになってきました。自然と共存しつつ、子供たちに残していける農業の形をこれからも追求し続けます。

2012年さらなる挑戦

- ①グループ農場での「農場HACCP」のシステム構築
 - ②まんまランド(加工施設)での「秋田県版HACCP」のシステム構築
※HACCPとは…食品衛生管理手法の1つで、食品の安全を目的とし、人が健康被害を被る可能性があるものを排除・予防するもの。
 - ③開墾した耕作放棄地の活用による飼料自給率の向上
 - ④秋田美豚の販売、広報活動の強化
 - ⑤まんまランドでしか食べられない名物料理の開発
 - ⑥地産地消のファーストフード「桃豚ぶたんぼ」のPR活動の拡大
- 夢はB-1グランプリ出場!?

▲耕作放棄地 / もとはこんなに荒れていました。(2011年6月)



2011年 新たな取り組み

ポークランドグループがお届けする新ブランド豚

秋田美豚 あきたびん

販売開始!

「美の国あきた」の豊かな自然の中で、のびのびと育てられた健康豚。

秋田県産のお米と麦類を与えて育てた、『秋田美豚』の販売が平成23年3月1日から始まりました。同日から千葉県の幕張メッセで開催された、国内最大規模の展示会「FOODEX JAPAN 2011」にも出展し、食のプロ達の舌を唸らせ、大きな手ごたえを得る結果となりました…が、しかし3月11日に発生した東日本大震災の影響で、こだわりの秋田美豚専用飼料の生産が難しい状況となるなど、好スタートを切ったにも関わらず、販売がストップしてしまいました。

その後、専用飼料の改良などを含む、生産の体制が整い、11月から販売が再開されました。冬ギフト商品としても登場し、お客様からも非常に高評価をいただいています。

耕作放棄地 開墾

新農場の向い側に新たに30ヘクタールの圃場が出来ました。耕作放棄地であったため、雑木や雑草がひどく開墾に非常に時間がかかりましたが、作業が進むにつれ大きな土地が姿を現しました。7月に入ってから圃場に土壌改良として自社製造の堆肥散布を行い耕起し、地力増進に努め、9月には菜種と牧草の播種を行いました。これらは雪の下で春を迎えるのを待ち、菜種については、5月中旬には満開の花を咲かせ一面黄色の景観を楽しむことができます。

今後は、自給飼料圃場とにんじんを始めとする野菜圃場との輪作を図り、自給率向上を目指していきます。

5月が待ち遠しい! 一面の菜の花畑がきっと...

2011年11月

オレンジワゴンが目印の「元祖 ぶたんぼ本舗」が大人気♪ 「桃豚ぶたんぼ」デビュー

秋田の食材にこだわった新グルメ「桃豚ぶたんぼ」が地元小坂町アカシアまつりでデビュー! 八峰町特産「塩もろみ」※1を混ぜ込んだ桃豚のお肉で、秋田県産あきたこまちを包んだきりたんぼのような形のファーストフードです。焼き上がりはこんがり香ばしく、たれと塩もろみの風味が絶妙です!

8月には、オレンジ色の移動販売車がデビュー。ぶたんぼ・ち〜棒・フランクなどを販売するため、県内イベントに出店してきました。今後もぶたんぼカーであちこちに出店予定です。

※1 塩もろみ:世界自然遺産の白神山で発見された天然酵母「白神こだま酵母」と日本海の海水塩、県産の米、麦を使った今までにない発酵調味液。

2011 ぶたんぼカー出店記録

8/19-20	花輪ばやし(秋田県鹿角市)
8/21	オーガニックフェスタ 2011(秋田県秋田市)
8/25	大曲の花火(秋田県大曲市)
9/17	かつの元気フェスタ(秋田県鹿角市)
9/25	あきた産しまつり(秋田県秋田市)
10/1-2	ABSまつり(秋田県秋田市)
10/8-9	はっほう秋のふれあいまつり(秋田県八峰町)
10/29-30	大館市産業祭(秋田県大館市)
11/6	きりたんぼ発祥の地まつり(秋田県鹿角市)
11/20	真冬の文化祭(秋田県鹿角市)

まんまランド 動物ふれあい体験農園 完成!

平成23年10月15日、「まんまランド大感謝祭」にあわせてオープンした「動物ふれあい体験農園」。現在は、羊、ヤギ、ウサギなどが飼育されています。この動物達とのふれあいを通じ、命の大切さや愛おしさを感じてほしいと思います。

楽しいイベント計画中! お楽しみに...

TVラジオ出演 & 雑誌新聞掲載

- 平成23年3月30日 **AAB** 「畜産を取り巻く震災の影響」
震災後、飼料不足等の非常に困難な状況について取材を受けました。
- 平成23年7月9日 **ABSラジオ** 「ラジオ快晴GO!GO!のマキ」
地産地消のファーストフード「ぶたんぼ」が紹介されました!
- 平成23年7月26日 **ABS** 「放射能汚染に対する取り組みについて」
農産物に対する風評被害が高まる中、当グループの取り組みについて取材を受けました。
- 平成23年 **あきたタウン情報12月号**
お取り寄せ商品紹介で秋田美豚のセットが紹介されました。

平成23年度の出来事

- 6月11日12日 地元小坂町アカシアまつりで新たなB級グルメ「桃豚ぶたんぼ」がデビューしました
- 8月2日3日 日本政策金融公庫主催 第6回アグリフードEXPO 2011に出展
- 9月4日 大柄林争奪 小坂町社会人野球大会にPorkland 野球部が出場 見事優勝しました
- 9月19日 社員2名が田沢湖マラソンに出場 見事完走しました
- 10月8日 第41回小坂町駅伝競走大会に出場しました
- 10月15日16日 第3回食と農の祭典「まんまランド大感謝祭」を開催
- 11月1日2日 第6回地方銀行フードセレクションに出展
- 12月1日 第6回アグリブリッジあきたのマッチングフェアに出展

平成23年 新しく総勢10名が入社しました

ポークランド 繁殖部 齋藤 聖 19歳/H23.4.1入社 向上心を持って仕事に臨んでいきたいと思っています。	あくりランド 販売部 金澤 賢作 30歳/H23.7.1入社 プロ意識の高い先輩の下で良い汗をかき、メリハリのある仕事をさせていただきます。	十和田湖高原ファーム 繁殖部 賀川 慎也 19歳/H23.4.1入社 入社して9カ月が経ちました。基礎をしっかりと、確実な仕事をさせていただきます。	十和田湖高原ファーム 繁殖部 石井 由光 33歳/H23.7.1入社 入社して半年が経ちますがまだまだ自分です。1日でも早く皆さんのように仕事ができる毎日頑張りたいです。	あくりランド 商品開発室 佐藤 誠治 30歳/H23.7.1入社 皆様に喜ばれるような商品や給食を作りたいと思っています。よろしくおねがいします。
ポークランド 肥育部 木村 寿昌 28歳/H23.7.1入社 分からない事が沢山ありますが、1つ1つ確実に覚えていきたいです。気合いで頑張ります。	ファームランド 肥育部 松野 大留 44歳/H23.4.1入社 毎日勉強する事ばかりですが少しでも早く戦力として認められたいです。	ポークランド 繁殖部 湯沢 政幸 27歳/H23.7.1入社 分からない事が多くあり、日々の作業では先輩方に迷惑をかけることがありますが「真直にストイック」に頑張っています。	まんまランド 店舗課 柳沢 千聖 19歳/H23.4.1入社 周りの方のアドバイスを良く聞き、明るく元気に笑顔で絶えず頑張りたいです。	あくりランド 商品開発室 前田 耕佑 29歳/H23.7.1入社 食べてくれた方に「美味しい」と言って頂けるようにがんばっていききたいと思います。

